



特集  
1

# KYOTO Next Award 2023

受賞者決定！

次代の京都ブランドを創り出す新たな担い手を発掘・表彰する「KYOTO Next Award」。  
今年3～5月に広く募集したところ、文化芸術や食文化、SDGsの推進や地方創生、  
ソーシャルビジネス等幅広いジャンルから  
60件にのぼる応募があり、選考の結果、2件の受賞者が決定しました。

## 実施概要

- **募集対象** 個人、法人、団体およびその商品や作品、技術、サービス等で、以下の各項目に該当するもの
  - 1 日本国内または世界に向けて、京都のイメージアップや課題解決のために、今後貢献することが期待できること。
  - 2 活動拠点が京都府内にあり、今後も府内での活動を想定していること。
- **表彰基準**
  - 未来の京都を創る取り組み、もしくは未来の京都ブランドになる取り組みであるか
  - 地域の課題や、身近な不便・不具合を解決する遂行力があるか
  - 地域が持っている潜在力・可能性、歴史やその中で育まれた文化・風習、深い精神性等への理解・想いがあるか
- **表彰** ● 最優秀賞 1件(副賞：活動助成金50万円) ● 優秀賞 数件(副賞：活動助成金20万円)
- **主催** 京都ブランド推進連絡協議会  
(構成：京都府・京都市・京都商工会議所〈所管：京都ブランド推進委員会〉)





# 株式会社 RE-SOCIAL

代表取締役 笠井 大輝 氏

特集1

KYOTO  
Next Award  
2023

## 鹿肉専門やまとある工房

～無益な殺傷から有益な経済活動へ～



笠井代表(中)と共同創業者の山本氏(右)、江口氏(左)



鹿の骨や内臓等を使ったペットフード



生体搬送により臭みがなく柔らかい肉質

全国で問題視されている「獣害」。二ホンオオカミの絶滅や温暖化の影響で野生動物が増加し、農作物・森林・人身に被害が及んでいる。国等から報奨金が出るため駆除に力を入れる地域も多いが、捕獲された多くが廃棄されているのが現状である。株式会社 RE-SOCIALの笠井氏は大学在籍中、大量の駆除動物が廃棄されている現場に衝撃を受け、人間と自然の関係性や命への感謝を「食」を通して伝えたい、と起業した。

野生動物の肉には「硬く臭みが強い」「安定供給が難しい」「可食部分が少ない」の3つの課題があったため、まず先達者の元で修行し、捕獲・解体処理・加工販売等の技術を学んだ上で、さらに、生体搬送・活け締めを導入や、一時飼育の実施、ハラル認証の取得等、他社にない取り組みを始めた。

捕獲時に現地で血抜き・内臓処理を行うことが一般的であるが、同社は罟猫で捕らえたシカを処理場まで生体搬送し、活け締めから食肉処理を一気に行い、硬さや臭みを解決した。また、捕獲数が多いときは一時養鹿によって、供給量の安定化を実現。さらに日本人には馴染

みのない部位の需要があるイスラム教徒への提供に向け「ハラル認証」を取得。また、ペットフードへの活用やレザー商品の製造等、さまざまな工夫を重ね、活用部分を3割から9割に押し上げた。

限りある資源を循環させる社会を目指して生まれたこの取り組みは、京都府笠置町から近隣の地域へと広がりは始めている。いずれは全国各地の獣害を解決し、理想の循環型社会を実現する原動力になってくれるはずだ。

### 選定理由と これからの期待

RE-SOCIALは、独自の技術とノウハウを活かし、これまで廃棄されてきた鹿を貴重な地域資源として有効活用することで、理想の循環型社会の実現に貢献するとともに、笠置町発の新たなブランドとして育つことを期待しています。

獣害対策としてジビエの消費拡大を通して、食肉からペットフード、革製品まで幅広くビジネスを展開しており、今後のさらなる成長が楽しみです。

### KYOTO Next Award 2023

表彰式を開催しました

日時：2023年10月16日(月)17:00~19:30

場所：京都リサーチパーク1号館 アトリウム

- program
- 1 表彰式
  - 2 トークセッション
  - 3 交流会

表彰式では、西脇京都府知事および門川京都市長から、受賞者に対して表彰盾を授与しました。また受賞者の取り組みに関心を持つ皆様をお招きして、交流を深めました。





# 一般社団法人アーツシード京都

代表理事 あごう さとし 氏

シアター イーナイン  
**THEATRE E9 KYOTO 劇場**

~100年続く小劇場を京都に!!~



地域のイベントにも積極的に参画



THEATRE E9 KYOTOでの公演の一場面



劇作家のあごう代表

2015〜17年の間に、京都市内の5つの小劇場が建物の老朽化や所有者の高齢化で相次いで閉館。舞台芸術を志す若手にとつての活動の場が失われた。一般社団法人アーツシード京都の代表理事で劇作家のあごうさとし氏は危機感を覚え、東九条エリアに小劇場・コワーキングスペース・カフェを併設した複合型文化施設「THEATRE E9 KYOTO」を2019年に開館した。今では演劇やダンスの公演から企業のパレゼンまで、さまざまな用途に活用されている。使用料を安価に設定し若手の活動を後押しするほか、劇場スタッフに若手を積極的に採用し、次世代の育成にも尽力している。

加えて、今年10月に京都市立芸術大学が近くへ移転し、京都駅東南部エリアが「文化芸術のまち」として注目される中、その一端を担う同館にも大きな期待が寄せられている。地域の催事に協力する等周辺住民とも積極的に関わり、地域から愛される劇場の運営に取り組んでいる。舞台芸術をビジネス分野に活かそうと始めた「E9

**選定理由と  
これからの期待**

アーツシード京都は、多くの小劇場が抱える経営の不安定さを多角的な事業展開によって克服し、さらには地域住民とも積極的に連携しながら、京都の舞台芸術の継承・発展に尽力されています。今後も地域社会と協働しながら活動の幅をさらに広げ、小劇場発の舞台芸術が京都の新しいブランドに育つことを楽しみにしています。

「アートカレッジ」は、舞台経験がないビジネスパーソンが演劇を通じて、自己認識力を高め、自らの思いを表現するもので、チームビルディングにも役立つプログラムとしてもニーズが高まっている。

京都では多様な人材が集い、影響を与え合う環境を原動力に、多くのアートやビジネスが生まれた。これからの100年を担う拠点として、同館には必要とされる場であり続けてほしい。

## KYOTO Next Award 2023 選考委員 ※順不同・敬称略

- |              |   |
|--------------|---|
| 選考委員長 / 内田 隆 | 京都青果合同株式会社 代表取締役社長兼グループ CEO<br>京都ブランド推進連絡協議会 会長 |
| 選考委員 / 秋元 祥治 | 株式会社やろまい 代表取締役<br>武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部 教授        |
| 門脇 あつ子       | 京都市リサーチパーク株式会社 代表取締役社長                          |
| 北川 一成        | グラフ株式会社 代表取締役                                   |
| 矢島 里佳        | 株式会社和える 代表取締役                                   |

下の二次元コードから受賞者を紹介するムービーをご視聴いただけます!

